

るにあたって「住んでいた東京・葛西と変わらないものを一つは残してあげよう」と、妻が関西の教室を探して見つけたのが西宮サティ。それだけが唯一の心のよりどころでした。子供を義母に預け、東京から始発の新幹線でやってきた私と妻は1日で物件探しを終え、東京に帰らなければなりません。

「お客さん、お子さんの幼稚園がものすごく近い、良い物件がありますよ」。飛び込んだ駅前の不動産業者に紹介されたのが西宮公会館総合ビルの賃貸住宅でした。まさに住宅と幼稚園が一体化しており、申し分ありません。すぐに入居と入園をお願いすることに決めました。

事務所にお邪魔すると、みなさんがくつろいでいらっしゃる様子。東京からの転勤の旨を伝え「子供は甘えん坊なのでよろしくお願いします」と切り出した私に、「甘えん坊はあかん」と園長先生。すかさず「悪いようにはしないから」と順子先生。最後に「読んでいて」と渡された幼稚園の書類。こんな簡単でいいんだろうか？本当にうちの子を預かってもらえるんだろうか？私と妻はぐっと言葉を飲み込んだまま東京に帰りました。ずっと後で分かったのですが、毎年恒例の「もちつき」が終わった直後にお邪魔したのが私たちだったのです。

2 その後の3年半は本当にお世話に

なりっぱなしでした。当初、関西弁に慣れない長男がなかなか仲間に入っていけない様子を見て泣いていた妻の姿も今となっては笑い話です。

園長先生は芦屋の産院で生まれた次男の“命の恩人”です。私が園庭で子供3人を遊ばせていた間、次男がフラフラと道路に出て行ったのに気づかず、連れ戻してもらったことがありました。長男が小1になった登校初日、「順子先生が『万歳万歳！』』とって送り出してくれたんだよ」と妻から聞いたことは、今でも折に触れ思い出します。子どもたちのことは私たち夫婦よりも、園長先生や順子先生のほうがよく分かってくださっていたんだと改めて思います。

「やっぱり教会学校はいいなあ〜」。先日、中1の長男がポロッと妻の前で口にしたそうです。部活が無い日曜日は是非行ってほしいと思っていましたが、大きくなったこともあって無理強いほしくないようにしようと妻と話していた矢先でした。具体的にどこがどうよかったのかは聞きませんでした。それは本人のほかに園長先生や順子先生がよく分かっているらっしゃると思います。それでいいんだと思います。

次女は共同幼稚園の途中で引っ越したので、前回やり残した分を懸命に取り戻しているようです。芦屋の産院で生まれた次男は「ここおぼえ

てるよ」といいながら、前回の「にしきた」の記憶はほとんどないようです。今は戸惑いながらお兄ちゃんやお姉ちゃんと教会学校に通っています。冒頭で紹介しましたように「にしきた」が気に入ったようです。

「街に抱かれる」という感覚があります。地域の懐が深いというような意味でしょうか。郷里の岐阜、東京（西荻窪）、栃木（宇都宮）、東京（葛西）、西宮、東京（吉祥寺）、西宮と引越しや転勤を繰り返してきて、共同教会、共同幼稚園のあるにしきたの街で「これがそういう感覚なのかな」と感じました。

転勤で大変な思いをするのは、いつも妻と子どもたちです。本当に申し訳ないと思っています。子どもが

成長するにつれ全員で動くことは難しくなりますが、ついてきてくれたからには、いい体験をいっぱいさせてやろうと思っています。

（後藤 将之）

最後に、少々話が飛躍するが、模倣が言語や文化の働きと一体化して高次元化する例として、1つの問題こぼれておく。アリストテレス以来、「芸術が自然をなぞる」のか、「自然が芸術をなぞる」のかが論的になってきたが、人は自分の危機に面したとき、聖書やあるいは共鳴する小説のテーマ、その登場人物に自己や周囲の他者を模し、その存在を意味づけていくことが珍しくない。

(「人生が芸術(小説)を模倣する」岡本夏木)

「わたしがどこに行くのか、その道はあなたがたにわかっているのか」と問われたトマスは、そうして投げかけられた言葉に「主よ、どこにおいでになるのか、わたしたちにはわかりません。どうしてその道がわかるのでしょうか」と答えるよりありませんでした。問われていることが、全く理解できなかつたということではなく、たぶんそうして示される“道”を、その足で確かなものとして歩くものと考えていたとすれば理解しにくかつたのだと思います。もちろん、そのあたりの村や町の道路ではなかつたのですが。

しかし、神の道が一人の体験として歩けるということになると、その道はかなり稀少なものになってしまいます。神の道は、簡単に歩いてしまう道であってはならないのです。ヨハネ福音書は、イエスの言葉で神の道を示します。「わたしは道であり、

しによらないでは、父のみもとに行くことはできない」(14章6節)。これが神の道であり手掛かりです。手掛かりなのですが、一人一人の体験となつて、更に誰かに伝えるとなると、それは難しかつたりします。というか、そうして了解されてしまうことを拒みます。“近道”はないのです。近道はないし、近道ではないけれど、ヨハネ福音書のイエスは、確信を持って“わたしは道であり、真理であり、命である”というイエス自身の言葉で、その道を示します。その場合、“わたしは道であり、真理であり、命である”のですから、その道を歩くこと、真理であるのですからその真理に立つこと、命であるのですからその命を生きることが求められます。

ヨハネ福音書の信仰・神による救いは、たとえば心で願い、心で祈ることによってそれが実現するというようなものとして理解されていません。わたし(イエス)をめぐる格闘を抜き

にして、どこかに近道があったりもしません。近道でないどころか、その場合のわたしは、道であり、真理であり、命であり、更に「わたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない」わたし（イエス）という条件付きの道です。しかし、道であり、真理であり、命であるものとしてそこにあるわたし（イエス）を、トマスは理解できませんでした。だからと言って、ヨハネ福音書のわたし（トマス）は、解りやすくそのことの意味や内容を語るということもありません。

たとえば、ヨハネ福音書9章には、生まれつき盲人であった人が、イエスの働きで見えるようになったこと、そのことをめぐりやりとりが書かれています。起こったことは「『わたしは、この世にいる間は、世の光である』イエスはそう言って、地につばきをし、そのつばきで、どろをつくり、そのどろを盲人の目に塗って言われた『シロアムの池に行き洗いなさい』。そこで彼は池に行き洗った。そして見えるようになって帰っていった」などのことです（5、6節）。生まれつき盲人であったものが、イエスの働きで見えるようになったことは、しかし、その場に居合わせた人や伝え聞いたりした人たちの間で“事件”になって、あれやこれやの騒ぎになります。「パリサイ人たちもまた『どうして見えるようになったのか』彼に尋ねた。かれは答えた『あの

かたがわたしの目にどろを塗り、わたしがそれを洗い、そして見えるようになりました』。そこであるパリサイ人たちが言った。『その人は神からきた人ではない。安息日を守っていないのだから』しかし、ほかの人々は言った、『罪のある人が、どうしてそのようなしるしを行うことができようか』」（14～16節）などとあって、あれこれ問いただされた時、“目が見えるようになった人”は、「もしあのかたが神から来た人でなかったら、何一つできなかつたはずですよ」と、あの人（イエス）についての証言を口にします。もちろん、そのことでパリサイ人たちだけでなく、盲人だった人の家族、近親の人たちにとっても、どろを塗って洗ったら、その人の目が見えるようになったということは、そのままでは了解しにくいことでした。そうとは言え、否定しようのない“事実”をまのあたりにした時、そのことを問いただすパリサイ人たちは、更に心を閉ざすことになります。他方、どうであれそこで起こった“事実・奇跡”に驚く人たちは、盲人の上に起こったそのできごとを彼と一緒に喜びます。だからと言って、ヨハネ福音書は、こうして起こった事実・奇跡をそのまま了解すれば事足りるとしている訳ではありません。

人が生きて元気が出たりするのは、次々と起こって実現する事実だけではなく、たとえ実現しそうでないこ

新緑が美しい5月！幼稚園の園庭の木々の葉も輝いています。つい最近まで小さな小さな葉だったイチヨウ、幼稚園一大きなケヤキ、生い茂っています。緑がいっぱいなのは園庭だけではありません。みんなが大好きな畑も緑がっぱいな季節。去年の秋にみんなで植えたいちごの苗がぐんぐん成長しました！そして、今年もたくさんのいちごが実ったのです。1月、2月の寒い時期に花が咲きはじめていたりして心配したことも…。苗がしっかり育たないうちに花が咲いてしまうと、おいしいいちごにならない、と花を摘み取ったこともありましたが、苗がしっかり育っていくのを見守り～そして、G.W. 明けから毎日のように味わったいちご。小さいのも大きいのも立派ないちご。「あかちゃんいちご～」「こんなにおおきいのがあった！！」いちごを見つけると嬉しそうに教えてくれる子どもたちでした。葉っぱの影に隠れているいちご、畝と畝の間にちょこんとしゃがみこんでいちごを探す子どもたちの姿はとても愛おしいのです。摘んだいちごを、畑で味わったこともありましたが、パクッとすぐに口の中に入れてしまうのではなく、まずはくんくん～「ああ～いいにおい」幸せ～なみんなの表情です。自分たちで摘んだいちごをその場で

味わえるなんて…なんて贅沢なんでしょう！畑はいちごだけではなく、ヒマワリもぐんぐん大きくなっていて、もう子どもたちの背丈よりも高くなっています。年長組の子どもたちはラディッシュとサニーレタスを収穫してサラダをいただきました。家ではちょっぴり野菜が苦手な子、いちごが苦手な子もいるようですが、幼稚園のはおいしい！！と食べる子どももいます。まるで畑の野菜は魔法がかけているみたい。自分たちで種や苗を植え、成長を見守ること、そんな時間が子どもたちにとっても大切だということ畑を通して教えてもらっています。さて、畑の野菜、いちごをいただく時ですが、毎日のお弁当も仲間と一緒に食べることに喜びを感じています。G.W. が明けて、ぼっぼ組は初のお弁当日を迎えました。きっと、今までこんなにたくさんのお友達と一緒にごはんを食べたことはなかったんじゃないかな？初のお弁当を食べながら「みんなまでたべるとおいしいね」と呟いた子がいたそうです。みんなと一緒に食べるのが楽しくて、嬉しくて～たまに「喋ってばかりいないで…」なんてこともありますが（笑）みんなと過ごすお弁当の時間も大切にしていきたいなあと改めて感じさせられました。5月19日（火）から1週間、7

休園となり寂しくなった幼稚園でした。各ご家庭と連絡を取り、みんなが元気であることがわかった時にはホッとしたことを覚えています。久しぶりに子どもたちと再会した時は嬉しくて嬉しくてたまらなかったのです。子どもたちと会えない1週間がこんなにも寂しいなんて...私たちにあって子どもたちの存在がこんなにも大切で大きいものであることを強く感じさせられた1週間となりました。

さて～！この時期、満開の花！すぐ挙げられますか？たくさんの緑に出会いましたが、満開の花にも出会いました。さんぽ・らった組は大井戸公園へ出かけて、見事に咲き誇るバラにうっとり～赤や黄、薄紫だったり～種類によって香りも違います。年長組は須磨離宮公園でバラ、スイレンに出会いました。花を見て美しいと感じたり、いい香りだと感じた

り、木陰に入ると涼しくて気持ちいいと感じたり、子どもたちと一緒に体いっぱい色々なことを感じたり、改めて気付かされたり、そんな時間が与えられていることに心より感謝します。

あつという間に、4月、5月が終わり、6月に入りました。「プールはいる？」「プールいつからはいるのかな～」と夏！を感じさせられる声も聞こえてきています。夏！の前に蒸し暑い...梅雨がやってきますが、体調を崩さぬよう、元気いっぱい過ごすことができますように...

(延原 光)

グアテマラ便り●@

グアテマラの隣、メキシコで始まった新型インフルエンザ。まさか日本でも地元が巻き込まれるなんて驚きでした。みなさまは、お変わりありませんか？

メキシコで発症以来、インターネットで日本の騒動ぶりをみていて、なんとこの国の呑気なことか、と逆に心配になるくらいでした。

(今も3人の確認という発表のまま、もうみんなの記憶から遠い話になっています)

ちょうどGW前で、私のご案内する予定だった旅行者の方も、キャンセルになり、準備を始めていた秋からのツアーも、一旦、棚上げ状態になってしまいました。お仕事も減ってしまったので、ここはしばらくお

休みをいただくことにし、バタバタとしていて関われずにいた子どもたちとの場を探すことに・・・

学校に行きにくい状況の子どもたちの施設、保育園的な場所をと思っていたのですが、こちらの元教師の方が紹介してくださった、公立の幼稚園へ週に一度、伺えることになりました。今はまだ、見学に行っただけなのですが、4歳クラスが2クラス、各40人ほどが「学んでいる」感じ。幼稚園のカリキュラムがあるのは、日本も同じかと思うのですが、より教育機関なんだなあ。。。と思いつつ見ていました。

国指定の教科書が、今までは配布されていたそうですが、昨年替わった大統領はその費用を出してくれないの、とノートにそれを写して使っています。

保育時間は、8時半から11時半の3時間。グアテマラでは必ずある、10時の「おやつ時間」(大人も同じです)・・・それぞれが、お菓子

やパンを持ってきています。学校でも鶏のサラダをはさんだパンが用意され、朝食を食べてこない子どもたちに対応しています。私も頂きましたが、お昼がいらなくなるボリューム。。。でも、昼食は1時過ぎが普通なので、子どもたちも、きちんと食べているのでしょうね。このパンも、今までよりも経費削減されているので、ハチミツしかはさめないときがあるのよ、ということでした。

おやつが終わると自由遊びです。4～6歳の370人ほどが遊ぶ...には狭い園庭なのですが、みんな元気、楽しそうです。

年度は1月から10月半ばまでで、約3ヶ月はお休み。10月半ばの年度末まで、何とか関わっていきたいと思います。

(横山 佳代子)

みかん便り●@

最近、だいぶ暑くなってきましたね。この炎天下の中、今村組は朝から夜まで100メートルパレードの練習をしています。もう顔、腕、足は真っ黒です。まだ6月やのに(笑)

今年の札幌遠征は、いろんな事件があり、もう札幌最終練習が終わっ

てしまったのに、まだまだやり足りてない部分があります。過去史上最高の演舞ですが、今、最高の緊急事態が起こってます。このみかん便りが掲載されているときにはもう遠征は終わって夢うつつになっていると思うのですが、まだまだ今は先が見え 9

ません。

いま、自分に足りてない部分がいっぱいでみんなの足を引っ張ることもあるし、成長し切れてない部分が多すぎます。一週間後の自分が何かをつかんでるかどうかを、出発までの残り3日間。精一杯思いっきり進んで行こうと思います。

大学生活ですが、最近やらないといけないことが多すぎて、勉強に身が入っていません。授業中はずっと衣装を縫ったり、レポートの下書きを書いたり、みかん便りの構想を練ったり、踊りの練習&イメトレをしたり...ホンマに毎日がしんどいです。。

一番のピンチは6月に入ったばかりなのにお金がまったくなくて、米しか食べてないところですね(泣) 今月は、ガス代滞納しないと生きていけません(苦笑) 来月から少しずつ節約生活をしていつて何とか埋め合わせをするつもりです。本気で誰か助けてほしいんです。あ~、やべえ。

8月に開かれる共同教会の能勢ワークキャンプ。大学受験の年1度以外は小1のころから毎回参加していました。今年でそのキャンプ場がなくなるとか、まだ2・3年続くとか色んな話を聞きますが、今年はテストの都合で参加できません。ホンマに残念です。毎年キャンプには色んな子が来ています。小さい子から高校

庭環境で育っています。初めての参加の子もたくさんいるんですが、そんな子達が3日間一緒に生活することで、どんどん顔つきが変わっていきます。最初嫌々来ていた子も笑顔で帰って行ったり、楽しみに来ている子は本当に満足した顔で帰っていきます。

毎回毎回新しい子たちとの出会いがあって、次に会った時は名前は覚えていなくても顔は覚えていて話しかけてくれたり。そんな経験ができるこのキャンプは1年の楽しみの中で大半を占めています。なのでやっぱり残念です。

覚えていないかもしれないけど、「来年またキャンプ場で遊ばな！」って約束したちびっ子達、ホンマにごめんなさい。来年、会えるかわからないけど、覚えてくれてたらまた喋ろうね。

ではこの辺で

(河村 高志)

すずや便り

こんにちは。突然ですが、一番好きな月はいつですか？私は5月です。爽やかだし誕生月でもあり、という月並みな理由だったのですが今年からは「薔薇の季節だから」が一番の理由となりそうです。この辺りのキャッチフレーズは「バラのまち中央区」。駅前公園にはバラの花壇が続き、咲き始めからずっと楽しませてもらっています。我が家のバラ達も順調につぼみを膨らませ、木立の黄色&オレンジに続きペランダのフェンスに這わせつつあるバラ（白&ピンク）も準備は万端！のはずが、あれ？日毎に伸びていく新芽とその先についた蕾はみんな太陽のほうを向いて...南向きなのでフェンスの外側ばかりです。これは思わぬ誤算です。咲き誇るバラたちを眺めつつ、コーヒーを飲むという私の夢はかないそうにありません。道行く人に楽しんでもらえるなら、と思いたいところですが我が家は4階です。しかも前は一戸建ての家なので屋根しか見えないのです。道路から見上げてみたのですが、どう考えてもあんなところを見上げる人はいない、という高さでした。来年へのいい課題ですね。さて今年も～今さらフェンスからは外せないで、マメに切花にすることにしました。おかげで家中いい香り。花びらが落ちそうになったら、花占い

（すき、きれい～）をして、そのまま「バラ風呂」。セレブみたい！と騒ぎながら「薔薇のある生活」を堪能しました。

せっかくの旬の季節、バラ園にも行っておかなくちゃと、ネットで調べ物をすると思わず登場する千葉の京成バラ園を目指すことにします。電車で片道2時間、新婚当時に住んでいた駅を通過して懐かしい気分になったりしながら到着です。うす曇りですが予報が雨だったせいか人出は少なく、五感を総動員して満喫してきました。バラのソフトクリームはピンク色で香りはもちろん味もバラで、なんてバラを食べたことはないのですがおいしい！この日は満開の一步手前くらい？で、開きつつある花びらの美しさにうっとりでした。他にも葉色のつややかさ、枝振り、アーチへの誘引等々見ごたえたっぷり。帰りには紫のバラ苗をお土産に。ガラスの仮面か？と心の中で突っ込みながら大満足の日でした。今回は初心者の方のバラ談義でお恥ずかしいのですが、バラ園まで行かずともぜひご近所のバラを探してみてください。きれいに咲かせているお宅は結構多いですよ。

（富家 香麻里）

教会学校から

《5月の活動報告》

5月3日(日)

いちご摘み

幼稚園の畑で真っ赤に実ったいちごを摘んで楽しみ、一人当たり3つほど味わっても楽しむことができました。

5月10日(日)

お母さんと一緒に礼拝をする

お母さんへのプレゼントにちょうちょの切り絵のしおりを準備しました。教会学校の礼拝にお母さんと一緒に参加し、礼拝後の活動の時間にはみんなでリンゴジャムのホットケーキを作って食べました。

5月17日(日)

高松公園でドッチビー大会

5月24日(日)

ちょうちょ作り

5月31日(日)

映画鑑賞会

《6月の活動予定》

6月7日(日)

クリーン大作戦

6月14日(日)

花の日合同礼拝

毎年6月第2日曜日は、教会、教会学校、幼稚園合同の花の日礼拝が行われます。礼拝に参加した皆でお花を楽しむために、花献金をお願いしています。

6月21日(日)

お父さんと一緒に遊んでもらう！

6月28日(日)

作って遊ぶ

2009年6月 あんなこと こんなこと...

大切な贈り物・津門川 8 1

“ 川そうじ日記 ”

まいのなんでも案内

おはようございます。5月病ならぬ、6月病の発症に戦々恐々しておりますまいです。6月って、世間一般の暦では、休日がないんですね。。。22年生きてきて何を今更、とお思になるかもしれませんが、小学校と大学は6月に創立記念日（というか私の大学生活において、暦は全く適用されていなかった）中高でも体育祭の代休云々があり、特に休日のなさを不便に感じた事はなかったのです。しかしいわゆる社会人となってしまった今年、水無月というのは名ばかり、実際は休無月であったかと、日々カレンダーを恨めしげに眺めるばかりです。うう。ちなみに我が家には6畳一間にカレンダーが2つ掛けてあります。と、いうのも、引越し当初は春にイギリスで買ってきたウォレス美術館カレンダー（1月始まりだったので破格のお値段だった）のみを使用していたのですが、4月、友人と電話でゴールデンウィークの話になったときに、うきうきして5月のカレンダーを見て心臓が止まりかけたため、慌てて押入れに眠っていたもう1つを採用したのです。・・・そりゃイギリスにゴールデンウィークはありませんよね。うん。日本の暦に従って暮らす以上、カレンダーは日本の物を。1つ賢くなりました。

さて、先に書きましたように、私のお部屋は決して広くありません。よくある感じのアパートです。3階建て、1、2階はそれぞれ5つの部屋がありますが、3階は1つのお家です。家主さんじゃないんだけど、家族がお住まいの様子。駅に近く、道路にも近いので、決して閑静ではありませんが、わたくし、根からの都会育ちなので、むしろ無音だとか、海の音だけが聞こえるだとかの方が落ち着かない。一番親しんでいるのは多分電車の音です。そして、隣人の生活音というのにもなかなか慣れております。そこまで壁が薄いところに住んできたことはないですが、どうしても壁一枚では聞こえる音もあります。壁に向かってボールを投げつけているとしか思えない音に怒り狂って、お返しに壁でハイキックの練習をしていた受験生の頃もありました。もう時効よね。ふふふ。で、こないだは、そんな隣の生活音をテーマにした映画『おとなり』を観てきました。ネタバレが嫌な方は、これから先は読まないで下さいね。

古いアパートの隣通しの部屋で生活する30歳前後の男女が、顔も見ただこともないけれど、お互いの生活音（鼻歌すら全部聞こえる、という設定）を通じて近づき、それぞれの生活

での挫折や事件を経て、意外な形で
出会う、というお話。邦画好きな友達
に連れて行っていただきました。いやあ、後味はスッキリで良かったです。あそこまで防音悪い家は無理だろ、とか、そううまくはいかんだろ、とか、そんなオシャレに独り暮らしできへんわ、とかツッコミは入れますが、まあ映画ですからね（というか最後の1つは人間の素質の問題）。途中までは、わたくしも、あと8年、東京で独り暮らししていたら、うっかり隣に岡田准一氏演じるヒーロー（？）並のカッコいい方が越してきて、自然、恋が芽生えたりするのかしら、なんて妄想しながら観ていたのですが、実は、麻生久美子氏演じるヒロインと彼は中学校の同級生で、うっかり同窓会で互いと気付かず会う、という展開に至った途端、夢は潰えたのでした。だってわたくし女子校出身……。ちなみに今現在、下宿の両隣は空き家です。4月に入居した段階はどちらもいらしたのですが、気付いたらこんなことに。まさかわたくしが夜な夜な椎名林檎を口ずさんでいたせいでしょうか。聞こえる音量ではなかったはずなんです……。というわけで、わたくしの運命の出会いはまだまだ先のように。ああ我が麗しの背の君は何処にやありけむ。（棒読み）

と、いうわけで、そろそろお外も明るくなり、上の家の生活音が聞こえ

てきました。ハッキリ言って、休日の朝早くから、走り回っているとしか思えない足音がするのには当初は驚きましたが、わたくしの睡眠への執念はそんなものには負けないので大丈夫です。そんなことより問題はまた徹夜……。夜型生活は抜け切れませんが、日々の生活に支障を来たさないように頑張ろうと思います。それでは。

（高橋 舞）

つとがわ 編集後記

“ペースメーカーだけで生きている”と言われて、富山県氷見市の老健施設に世話になっている父は、2月にそのペースメーカーの手術をして元気になっています。訪ねていって、声をかけると気が付きますが、食事以外ほぼすべての時間ベッドで横になって、手足もほとんど動かすことのない父は、体全体が固まってしまっています。7、8ヶ月前は、左手を動かしてスプーンで自力で食べていましたが、今はその左手も動かさずじまいません。

宝塚の施設で世話になっていて、4月に肺炎で1ヶ月ほど病院で過ごした父は、その1ヶ月間食べるということをしませんでした。食べないで点滴だけで横になっていた父が、施設に戻ってとりあえず椅子に座った時、少しとまどっていました。出されたおやつを自力でスプーンで食べていました。特養の施設で、食べる以外まったく自分で何かをするということのない生活を、どこかで引き受けて生きてきた父です。

人として、その都度必要な助けが得られれば、自分の世界を少しは守ったり広げたりできそうですが、氷見の父も、宝塚の父も、なかなかそうはいきそうにありません。

・(K)

紫陽花の花が今、とてもきれいです。先日子どもたちと紫陽花の花で楽しみました。『まださいないけどなんかつづつづがいっぱいあるね』と、お家の人に説明した、そのつづつづとは額紫陽花の花の部分でした。額紫陽花について調べてみると・・・「本来の花は中心部で小さくめだたない。花びらに見えるものは萼(がく)である。」なんだそうです。で、よくよくそのつづつづを見てみるとそのつづつづも開いてるんです。ああ～これもほんとに花なんだ！と、改めてびっくりするとともに、何もみていなかった自分にも気がきました。何となく見ていることってたくさんあって、そんな何となくを子どもたちに教えてもらいました。何となく、今まででなんてつまらない見方をしていたんだらう……。今年は紫陽花がこれまで以上にとても美しく感じます。

(I)

読書、お菓子作り、ショッピングと多趣味な私ですが、最近あることを新たに始めました。服作りです。身体が小さく、既製品が合わずに苦労することが多いので、作ってみることにしました。まだまだ始めたばかりですが、いろいろ作ってみ

たいと思っています。まずはワンピース作りにチャレンジ中！！です。

(Y)

今年もこの季節がやって来ました！先日子ども達と一緒に梅ジュースを作り、みんなで味わいました。後日お家でも作ったよ～という子どもが何人がいてびっくり！とても嬉しかったです。梅酒好きな私は今年も梅酒を作ろうかなあと思っています。梅酒につけられた梅も大好き。去年作った梅酒もまだあるのですが、今年は何に漬けようか～黒糖梅酒もいいなあなんて考えています

(N)

庭のアジサイがとてもきれい！実に各色華やかに輝いています。梅雨の候、雨はうとうしいと思う季節でもありますが、この6月、花々は生き生きと綺麗に咲いていて、もうすぐやってくるわたしの誕生日を祝っているようです。相変わらずの「世界はわたしのために～」スタイルと思考で、とうとう暦が還ってきました。きゃあーっ！

とはいえ、「雨ニモマケズ～」のように、東に西にと忙しくしています。昨年4月半ばにやってきた日産ノート、1年で2万1千キロ。1年で、です。東に病気の子どもの看病、西の母の仕事の肩代わり、南のお見舞いと励まし、北の喧嘩と訴訟への口出し、なあんて。実のところはお見舞いを受け、仕事をいっぱい助けてもらい、いろいろ仲裁に入っていたら、「がんばって、がんばって」と励ましを受けつつ、ここまで到達しました。ほんとにありがとうございます。これからもよろしく願います。で、一体どこに向けて車を走らせてたの？

(J)